

(三遠南信を語る会)

いとう なおゆき
◆講師:伊東直幸氏(新野祭り街道の会事務局長)講演の様子



(概要)

新野(長野県阿南町)の雪祭(国指定重要無形民俗文化財)は、まず神前に雪を供えることから始まる。降雪が多いほどその年は豊作が期待できるという。「大雪でございます」は秋の実りを期待する喜びの声である。この祭の鬼には角がなくユーモラスな面形で親しまれている。鬼の力を借りて悪霊を封じ込め豊作を願う祭である。



新野「雪祭」の鬼
伊東直幸氏撮影

しばた こうすけ
◆講師:柴田宏祐氏(浜松市文化財保護審議会委員)講演の様子



(概要)

遠州の田楽(国指定重要無形民俗文化財)は西浦田楽を除いて「ひよんどり」・「おくない」と呼ばれる。火を使って舞うので「ひよんどり」、苗作りから収穫までを演じるので「おくない」といわれている。(1994年には国の重要無形民俗文化財の指定を受けた。)川野・寺野の「ひよんどり」、懐山の「おくない」は勇壮な鬼の舞でクライマックスを迎え、悪霊を追い払い豊かな実りを願う祭である。



寺野「ひよんどり」の鬼
切絵 上嶋裕志作

やまき かずし
◆講師:山崎一司氏(民俗芸能学会評議員)講演の様子



(概要)

安久美神戸神明社(豊橋市)の鬼祭は、天下の奇祭として有名。特に天狗と鬼のからかいは平安時代から続くユーモラスで有名な田楽であるが、本来大晦日に行う年越しの神事であった。鬼がまくタンキリ飴は、無病息災、厄除けになる。



国指定重要無形民俗文化財「鬼祭パンフレット」より